

くろねえ個別会議(上三川町)

【基本情報】

団体名:地域包括支援センター	
構成メンバー:住民、SC、民生委員、CM、社会福祉協議会、地区担当保健師等	所在地:上三川いきいきプラザ
電話番号:0285-56-5513	メールアドレス:hokatu@kamisyakyo.or.jp

【取り組み概要】

対象者層:住民	活動頻度:随時
活動場所:公民館等	平均利用者数:6~10人程度
利用料金:なし	

●取り組みの内容

地域で困りごとを抱えて生活している人の課題を解決するため、自治会や班単位など、身近にいる住民や関係者を中心に話し合い、その支援方法を検討する会議の実施。

●取り組みをはじめたきっかけ

一人暮らしや高齢者のみの世帯の増加、認知症など、制度だけでは支えきれない高齢者の支援を検討するために、地域個別ケア会議を開催することとなった。

●取り組みにあたっての工夫点

公的(フォーマル)なサービスの調整のほか、非公的(インフォーマル)な支援で対応できることを参加者全員で考えるようにしている。その際、生活支援コーディネーターが地域の社会資源についての情報を提供している。

●効果・実績

令和元(2019)年度:地域個別ケア会議20回開催(うち7回は生活支援コーディネーターが参加)
会議を通じて、地域住民がゴミ出しを引き受けたり、関係者で対象者宅の大掃除をするなど非公的な支援につながった事例もあった。

●活動にあたり連携している団体等

- ・上三川町健康福祉課高齢者支援係
- ・居宅介護支援事業所
- ・在宅介護支援センター

●活動に関する広報方法

- ・地域個別ケア会議の結果を、高齢者支援協議体、地域ケア推進会議に報告
- ・上記会議において、地域課題を抽出

●取り組みへの生活支援コーディネーターの関わり方

- ・社会資源の情報提供
- ・対象者が暮らす地域の特性や、支援を頼めそうな住民の情報提供

●現時点での課題・今後の展開

対象者の同意が得られない場合、会議の開催ができないことが課題である。令和2(2020)年度、第2層協議体において個人情報の取り扱いについて協議していく予定となっている。

新型コロナウイルス感染症の影響で、地域住民から参加を断られるケースがある。今後は、従来のように集まって話し合う形式以外の方法も検討する必要がある。



「向こう3軒両隣」を目指した安否確認の検討(益子町)

【基本情報】

団体名: 星の宮地区生活支援協議会	
構成メンバー: 星の宮区長、自治会長、民生委員児童委員、健康クラブ会長、社会福祉協議会等	所在地: 益子町大字益子2030益子町役場高齢者支援課内
電話番号: 0285-72-8867	メールアドレス: kourei@town.mashiko.lg.jp

【取り組み概要】

対象者層: 第2層	活動頻度: 年4回(現在は会議のみ)
活動場所: 益子町大字塙 地内	平均利用者数: (未実施)
利用料金: なし	

●取り組みの内容

令和元(2019)年度に実施したアンケート調査において、住民から最も多くの要望があった「安否確認」の取り組みを進めるため、協議会において、実施方法の検討と地域への周知を実施。

●取り組みをはじめたきっかけ

平成31(2019)年3月に星の宮地区(約900世帯)をモデル地区とし、生活支援協議会を立ち上げた。「出来ること」から始めるため、住民を対象に、アンケート調査を実施した結果、「手助けして欲しいこと」と「手助けできること」の両方とも1位は「安否確認」となった。

●取り組みにあたっての工夫点

取り組みの内容を検討するため、モデル地区内の高齢者(独居又は高齢者世帯の世帯員)を無作為に抽出し、アンケート調査を実施した。

また、取り組み内容として決定した安否確認は、見守る側の負担にならないよう「無理なく」でき、かつ見守られる側の気持ちも配慮し「さりげなく」できる方法を念頭に検討した。

●効果・実績

安否確認の実施方法を決定し、チラシにより地域への周知を行った。

各戸1枚ずつお取りください。

星の宮地区の皆さんへ

高齢者見守りネットワークを作りました。

平素より、自治会の運営にご理解ご協力いただき誠にありがとうございます。

さて、星の宮地区では、高齢者社会の中で高齢者の皆さんが住みなれた地域で安心して暮らし続けることができるように、地域で何かできることはないかと、H31年3月より区長・自治会長・民生委員・星の宮健康クラブの会長・社会福祉協議会・町高齢者支援課で協議会を作り、話し合いを重ねてまいりました。

そして、星の宮地区の高齢者の皆さんを無作為に抽出しアンケートを実施した結果、「手助けしてほしいこと」「手助けできること」として1番に多かった意見として安否確認がありました。

そのため、まず最初は「向こう3軒両隣」外からさりげない見守りをし、「あれ?」と思ったときの連絡ルートを決め、「見守り、気づき」ポイントをまとめて周知しようということになり、裏面のような見守りネットワークを作成しました。

ぜひ、参考にしていただき、安心して暮らし続けることができる星の宮地区をつくっていきましょう。



星の宮地区生活支援体制整備協議会

※裏面を参考にしてください。

●活動にあたり連携している団体等

- ・該当地区自治会
- ・該当地区民生委員児童委員
- ・該当地区健康クラブ
- ・益子町社会福祉協議会
- ・益子町地域包括支援センター



●活動に関する広報方法

- ・該当地域の自治会長を通し、チラシを全戸に配布

●取り組みへの生活支援コーディネーターの関わり方

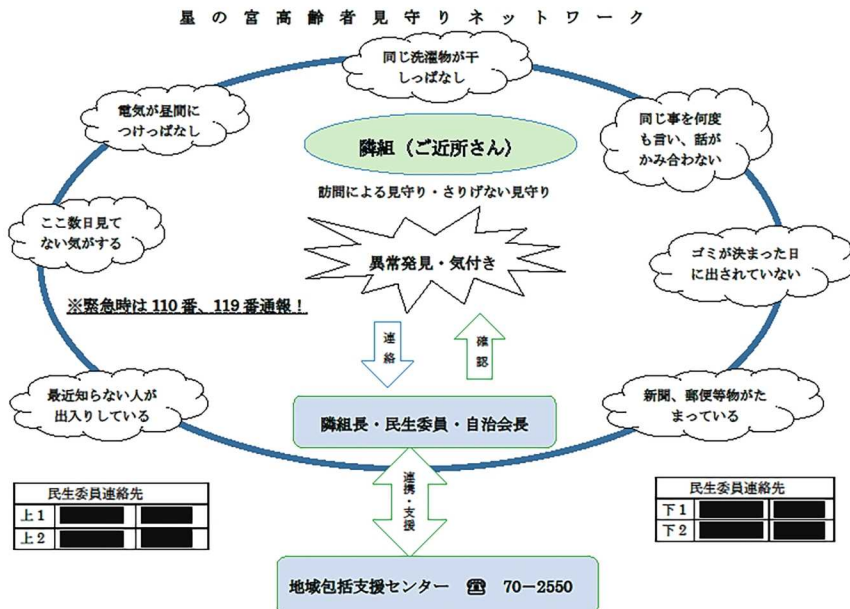
会議の進行、取り組み内容に対するアドバイス、情報提供等を行っている。

また、事業を円滑に進めるには、住民と顔見知りになるなど、この事業以外での関わりが重要となるため、サロンや教室等に出向き、住民の中に入っていきように心掛けている。

●現時点での課題・今後の展開

人と関わることが苦手な人もいます。プライバシーの問題もあるので、地域住民がどこまで入り込んでいけるかが課題である。

今後の展開として、まずは、安否確認の取り組みを地域の方に浸透させていくことになるが、困ったときはお互いの気持ちで支えあえる「向こう3軒両隣」の関係に発展していくことを目指す。



松野行政区地域支え合い座談会(那珂川町)

【基本情報】

団体名:松野行政区

構成メンバー:住民

【取り組み概要】

対象者層:住民

●取り組みの内容

地域住民が、地域に合った見守りシステムを検討するため、地域座談会を開催。地域支え合いマップや支え合い体験ゲームを活用し、地域課題の整理、情報共有を図った上で、課題解決に向けた話し合いを実施。

●取り組みをはじめたきっかけ

地域見守り隊が町内3か所で組織されているが、その後、新たな組織が立ち上がらないことから、地域に見合った新たな見守りの形を構築させるため、地域座談会を開催することとなった。

●取り組みにあたっての工夫点

行政区内の班ごとに分かれ、地域の基本情報からマップに落とし込むことにより、参加者同士のコミュニケーションを図った。

見守りの仕組みづくりは、地域課題の一つであることから、地域力強化推進員と連携し、会議を開催した。



●効果・実績

自分の住んでいる地域の現状を知ることができ、今後の仕組みづくりの足掛かりができた。

●活動にあたり連携している団体等

・地域力強化推進員

●活動に関する広報方法

- ・行政区での開催のため、参加者については回覧板で周知。
- ・実施後は、その様子を社協広報誌に掲載し、広く町民へ事業内容の周知を図った。

●取り組みへの生活支援コーディネーターの関わり方

マップづくり部分の進行を担い、意見の出しやすい雰囲気づくりに努めるとともに、当該地域の現状を知ることができた。

●現時点での課題・今後の展開

令和元(2019)年11月に実施した第1回座談会で出された課題を、第2回で今後どのようにしていくか検討する予定であったが、新型コロナウイルス感染症の影響で開催できていない。

また、第1回の参加者が少なかったことから、第2回はより多くの方に参加してもらえるよう働きかけていきたい。

